



2019年7月1日

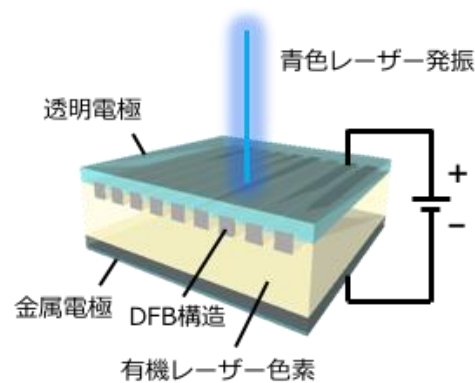
## 株式会社 KOALA Tech への出資について

日本材料技研株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 浦田 興優、以下「日本材料技研」）は、このたび、有機半導体レーザーダイオードの開発・製造・販売を手掛ける株式会社 Koala Tech（本社：福岡県福岡市、代表取締役社長 リビエル・ジーン・チャールズ・モーリス、以下「Koala Tech」）に出資いたしました。

KOALA Tech は、2019年3月に設立されたベンチャーであり、九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター（以下「九州大学 OPERA」）の安達千波矢教授らが開発した有機半導体レーザーダイオードの実用化を目指しています。

九州大学 OPERA では、世界初の電流励起型有機半導体レーザーの基礎技術の開発に成功し、この成果は2019年にAPEX (Applied Physics Express) の速報版において発表されました。電流励起型有機半導体レーザーは、無機レーザーでは実現が困難な、可視域から赤外域全域にわたる広範囲の波長を任意に発振できるという有望な特徴があり、将来の光通信やセンシング、そしてディスプレイまで幅広い新しい分野への応用が期待されます。

<九州大学 OPERA が開発した有機半導体レーザーダイオード>



日本材料技研では、これまでに、株式会社アルガルバイオ（微細藻類）や株式会社名城ナノカーボン（単層カーボンナノチューブ）に出資するなど、他の材料系ベンチャーへの資本参加も進めています。今回の出資を通じて KOALA Tech との連携・協業を深め、日本材料技研が有する業界ネットワークや事業化ノウハウを活用して KOALA Tech の企業価値向上に寄与するとともに、同社の知見も活用しながら次世代有機光エレクトロニクス関連素材事業の創出についても検討してまいります。

日本材料技研は、有機材料・無機材料・バイオケミカル等の素材分野に特化したファブレス型ベンチャーとして、国内企業や大学・研究機関等で開発された革新的技術について、ライセンスアウトやカーブアウトを通じた事業化に取り組んでいます。今後、素材分野に関連するベンチャーとも、シードマネーの提供も含めた連携・協業を進め、日本の素材産業におけるイノベーション創出に貢献してまいります。

以上